佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2025年9月 – 第40号

皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ：フェアに行こう！

夏から秋にかけて、アメリカの各州で「ステート・フェア」が開催されます。ステート・フェアは、農業や家畜の展示会、競技会、乗り物、ゲーム、ライブ音楽、屋台やキッチンカーなど、盛り沢山の楽しい催しがあります。

出身地のワシントン州には、「ワシントン・ステート・フェア」があります。毎年9月に、シアトルから車で約1時間南にあるピュアラップ市で開催されます。ワシントン州民の間では「ピュアラップ・フェア」として知られています。ちなみに、「ピュアラップ」は、その地域の先住民族の名前で、昔からその地域に住んでいます。州外の人たちは、英語の綴り「Puyallup」の読み方がわからないことが多いです。このフェアは、1900年から125年の歴史を持つ大イベントです。約20日間にわたる期間中の来場者は100万人以上となり、アメリカの中で、最も大きいステート・フェアの一つです。子供の時から、毎年校外学習で行ったり、家族、友達、近所と一緒に行ったりしました。

低学年の時、動物を見学することが主な楽しみでした。ふれあい動物園があり、ウサギ、山羊、羊などの動物と触れ合うことができます。動物の赤ちゃんも展示されています。孵卵器があり、卵から孵化したてのかわいいひよこをクラスで見学していた記憶があります。そして、特に印象に残ったのは、約10匹の子豚におっぱいをあげていた大きな母豚でした。そんなに多数の赤ちゃんを産むことができる動物を初めて見て、驚きました。都会育ちの私にとって、家畜について学べたことは貴重な経験でした。

少し大きくなると、動物よりも、乗り物に興味を持つようになりました。遊園地のように、メリーゴーラウンド、観覧車、ティーカップ、ゴーカートなどの様々なアトラクションがあります。私の気に入りのアトラクションは、ジェットコースターでした。高い、速い、ぐるぐる回る乗り物が大好きです。しかし、私の家族と友達は、スリル系の乗り物が苦手な人が多く、一人で乗ることが多かったです。（兄を無理矢理一緒に乗らせると、昼ご飯を戻したこともあります。）私の親友は、乗り物より射的ゲームなどが好きだっ

たので、一緒にフェアに行った時、いつもゲームが終わるまで待ちくたびれました。

乗り物やゲームを利用するには、約15ドル（約2200円）のフェア入場料とは別に専用チケットの購入が必要です。乗り物の近くに各所にチケット売り場が設けられており、一枚ずつか回数券を購入することができます。回数券は事前にオンラインでも購入可能です。今年度の値段を調べてみると、24枚が30ドル（約4400円）、54枚が60ドル（約8900円）です。人気の乗り物は5～8チケットがかかるそうです。つまり、1回の利用につき約6ドルから10ドル（約900～1500円）ほどとなる計算です。

ステート・フェアは、日本のお祭りのように、屋台が多くあります。定番のハンバーガー、ピザ、ポテトフライ、ホットドッグ、アメリカンドッグ（アメリカで「コーン・ドッグ」“corn dog”といいます）、綿飴などはどの州でも人気があると思いますが、名物を食べるために大勢の人がわざわざ遠くから足を運びます。

ワシントン・ステート・フェアの名物は、「フィッシャー・フェア・スコーン」です。「フィッシャー」という小麦粉会社が、1915年のフェアで小麦粉の宣伝のためにスコーンを販売したのが始まりで、大ヒット商品になりました。ワシントン州産の小麦粉で作った焼きたてのスコーンに、ホイップバターとワシントン州産のラズベリージャムを挟んで食べます。毎年長蛇の列なので、実は、私は食べたことがありません。毎年「エレファント・イアー」（elephant ears）を食べました。「像の耳」という意味ですが、お肉ではありません。A4サイズのコピー用紙と同じ大きさの揚げパンに、シナモンシュガーをふんだんにかけられたお菓子です。スコーンの次に二番目人気があると思います。

様々なフェア・フード。左上：フィッシャー・フェア・スコーン、右上：エレファント・イアー、左下：マカロニとチーズのナチョス、右下：チーズバーガー

多くのワシントン州民にとってワシントン・ステート・フェアは楽しい思い出がいっぱいありますが、フェアの会場に、とても辛い歴史があります。1941年に真珠湾攻撃があり、アメリカと日本は戦争になりました。1942年2月19日に、ルーズベルト大統領は、大統領令9066号に署名し、日系アメリカ人は強制的に収容所に移送されました。しかし、強制収容所の建設工事が間に合わなかったため、西海岸の各地に指定された「集合所」という場所に一時的に収容されました。ピュアラップ市のフェア会場は、「キャンプ・ハーモニー」という婉曲的な名前で呼ばれていましたが、1942年5月から、アイダホ州の「ミニドカ強制収容所」が完成する9月まで、7500人以上の日系アメリカ人がそこに収容されました。現在、二度とこの歴史を繰り返さないため、ワシントン・ステート・フェアの会場には「JACL Remembrance Gallery」（日系市民協会の記念キャラリー）という常設展示があり、収容者全員の名簿が掲示されています。

ステート・フェアでは、「ザ・アメリカ」を体験できます。昔ながらの展示会やアトラクション、美味しい食べ物、そして地域の歴史まで、アメリカの文化を存分に味わえます。機会があれば、是非行ってみてください。★

お問合せ先
教育部　生涯学習課　国際交流員　〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel：011-381-1049　Fax：011-382-3434